

定期試驗

九、日本地誌科
市ト稱セラルハ如何ナル事
由ニヨルカ
「一」京都地方ノ歴史的遊覽の都
東カラ西へ順次二列記セヨ
福山・岡山・尾道・廣島・島崎
路、神戸、下關、山口、糸崎
防府
「二」山陽線ニアル左ノ都市ヲ
「三」四國地方ノ農工業上ノ主
要產物ヲ舉ゲヨ
「四」左ノ事項ニ答エヨ
イ、友禪染ノ产地
ロ、桃山御陵ノ所在地
ハ、海上ノ守護神トシテ有名
ナル神社
ニ、法隆寺ノ所在地

△霜△

植物に損害を及ぼす霜を警戒し
又は其損害を減らす可能性の手段

(四)

The image shows a horizontal strip of paper containing several business cards and a large central logo. The logo is circular with a stylized design. The text around the logo includes 'Matriz Azarias Leite 1-82 Telephone 322 Baurú' on the left, 'Filiaes em S. Paulo e Marília Engenho de Arrois e Café em Baurú e Marília' in the center, and '日 内' (Date) at the bottom left. To the right of the logo, there is a large 'Hotel Ushio' sign with 'Caixa Postal 328 Rua: Rangel Pestana 44 Santos' below it. Further to the right, there is an advertisement for 'Moura Andrade & Cia.' with 'Representante na zona Noroeste Suyeo Tsuzuki' and 'Caixa, 85 Promissão'.

新田
總裁
伯

まづは見事

伯の大目玉に期待する

満蒙へのニラみ

仙石滿鐵總裁は世間の期待通りに是致しませんと大きく出た。その結果は世評もあり、いよいよ電光二頭内閣といひぜう、組閣以來三つあつた形だから大した驚愕でもなかつたが、内田伯の推薦はまさに青天のへきれきの觀であるそれだけに若規内閣初の人事としてはフレッシュな出来事であらう、仙石老としてはたけ匂思ひついたのが内田康哉が立たせようと爪をかみ考へる。

最近まで詳職の意思なく政府も伯、十二日開議以前にまづ原拓が結ばれてゐるやうなのが病勢衰へて使ひした結果がキーピングの後で原拓相と若規首相が協議を委して下さり、われやく明治廿年赤門を出た、直ちに外

す本人も政府もついに決意し同

時に大平副總裁をも辞職せしめ

て奇麗さばり出直さうと考へ

たのが去る六月九日、同日開議志

の結果珍しや若規首相は「一切

男、早川千吉郎氏などと同級で

行く度であつたのが病勢衰へ

て本人大も政府もついに決意し同

時に大平副總裁をも辞職せしめ

て奇麗さばり

坂東侠客陣

(14)
「でも大切な繪画面を描んでゐる。」
「ちやと申して、奇快至極。」
「いやそのままで。」

「お寺が取り締める手を拂つて、

豹馬が早く、半次と坂右衛門

がハラ／＼と取つて返して行く。

「何處へ行く！ 何しに参るの

ぢや。」

「知れた事です。一味の秘密を

明かしてあるからにや、唯押

し放す譯にや行きません。」

「殊に捕者が半次に招かしたも

の、その手前にも、平手に山

の秘密を知られて、ひざと此

の便逃げられては申し譯が相

立たぬ。」

「いや、酒造が一味に加はらぬ

とて、その責任まで其方たち

にはない。彼はア、しな我儘

がいい。」

「併し、餘りと申せば踏みつけた致し方。」

「また、馬の胸に預けて置く

それはさて置いて、半次には

密々頼みない一議がある。夜

半だが恰度い、折故、此室へ

入つて貰ひたい。」

「またへう馬の胸に預けて置く

は、奥

の間から洩らしたやうな聲で、

「ア痛フ、フ、フ、フ！」

左の手は無意識に、生ぬるいも

のが溢れた右腕を押さへて、真

うしろ捨てに間を切つた忠吉の

脇差。」

その切ッ尖が、見りと走つて

行つたのと一緒に、部屋の外へ

もんどり打つた平手造酒は、齒

雲乃は前の部屋の燭臺を灯け直

してゐた。一同がその部屋へ入

る。山駒は、

「わつしも江戸の神田者ですか

ら、長脇差といふ様な肌合ひ

が、もとより造酒の姿は、ま

ず、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬

の暗黒の底を流れる遠い音は、

う其の邊りに見ゆる管もない。

神野から落ちて行く流の末であ

り。かそき葉すれば夢に驚い

た鳥であつて人ではない。

なくとも、岩屋の半次が、岩屋の別室には

寝てゐる佐鳥坂右衛門と慌てて

呼び起し、彼の方を見廻す

「誰ちや。闇の中から福王豹馬